



金沢大学医薬保健学研究域薬学系炎症記憶制御学

古賀 友紹

令和8年(2026年)4月1日付をもちまして、金沢大学医薬保健学研究域薬学系・炎症記憶制御学教室の教授を拝命いたしました。これまでご指導いただいた先生方、ならびに研究生活を支えてくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

私は熊本大学薬学部で甲斐広文先生のご指導のもと、生体防御機構の研究を始めました。大学院修了後は、日本学術振興会特別研究員として遺伝性腎炎などの病態機構を研究し、九州大学、順天堂大学では横溝岳彦先生のご指導のもと、生理活性脂質と炎症応答について研究しました。2016年に熊本大学に復帰してからも、杉本幸彦先生のもとで生理活性脂質と炎症応答について研究を継続し、2017年からは熊本大学発生医学研究所で中尾光善先生のご指導のもと、炎症とエピジェネティクスの研究に取り組みました。振り返れば、研究者としての節目ごとに尊敬すべき師に巡り合い、異なる研究領域に触れる機会を得られたことは、この上ない幸運でした。

こうした経験を基盤として、現在私が注目しているのが「炎症記憶」です。細胞は炎症刺激を受けると、その場限りの応答を示すだけでなく、刺激がなくなった後にも、その経験を反映した状態を保持し、次に受ける刺激に異なる応答を示すことがあります。では、細胞は炎症をどのように「記憶」しているのでしょうか。私は、脂質代謝やタンパク質修飾、クロマチン・エピゲノムといった、DNA配列そのものには書き込まれていない「高次情報」に着目し、炎症の経験が細胞状態として保持される分子機構を明らかにしたいと考えています。

炎症記憶制御学教室では、「人を育て、学問を育み、社会へ届ける」をモットーに、独自に開発した遺伝子改変マウスや細胞解析技術、多階層オミクス解析などを組み合わ

せ、炎症記憶の分子基盤の解明に取り組みます。そして、その知見をアルツハイマー病、アルポート症候群、がんなどの難治性疾患の病態理解や創薬へとつなげることを目指します。

新しい研究室で、どのような発見に出会えるのか、今から楽しみにしています。炎症記憶という新たな研究領域と一緒に切り開いてくれる大学院生も募集しています。炎症、免疫、脂質、エピジェネティクス、創薬などに興味があり、自ら問いを立てて研究することに挑戦したい方を歓迎します。専門分野やこれまでの研究経験にかかわらず、新しい視点を持って研究に取り組む仲間と出会えることを楽しみにしています。「虚心観万象」の精神で現象に向き合い、「運を運びたいければ足を運べ」の言葉を胸に、手を動かし、粘り強く研究を進めていきたいと思います。

これまで賜りましたご支援に心から感謝申し上げますとともに、研究を発展させ、次世代を担う人材の育成に力を尽くしてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



炎症記憶制御学 集合写真